

境内には、毎年沢山の花が咲きます。六十一号より裏面に宝清寺の草花をを紹介しています。今回は、面白い名前の草花の話です。

身延山五重塔復元 建立祈念誌
『五重塔復元記念誌「宝塔涌現」』が刊行されました。内容は、五重塔発願から落慶までの背景・経緯・歴史・信仰・仏教の解説・設計建築の詳細・法要行事の記録など歴史的大事業の全てを克明に記録したものです。

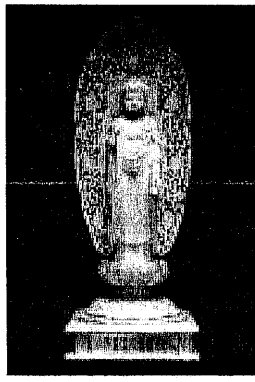
明けまして
おめでと
御座います

昨年十二月五日に家内の関係で、国際ソロプチミスト東京東主催のチャリティイベント「クリスマスショー」で加山雄三の歌とトークを楽しんだ。私が加山雄三と初めて出会ったのは、私が勤務していた吉祥女子高等学校のスキー教室の引率で岩原スキー場に行った時、丁度、加山雄三がザ・ランチャーズのメンバーと一緒にスキーを楽しんでいた時だった。「若大将シリーズ」全盛の頃で話をするのは出来なかったが、とにかく格好良かったことを覚えている。

数年前、帝国ホテルの地階廊下で加山雄三とすれ違った。そのとき家内に思わず、「さすがの若大将も老けたね」と話したことを思い出した。加山雄三も今年、七十二歳になるので以前のようにさわやかな声も出ないかもしれないと不安に思いながら、ホテルニューオータニでの食事を楽しんだ。やがて、八八八人を前にした加山雄三

日蓮聖人
遺訓 (一一一)
『行学の二道ははげみ候べし、行学たえなば仏法はあるべからず』
実践と学問、この二つそろわなければどんなに立派なことを言ってもなんにもならない。仏法とは世法のことであるから、行学の実践と学問の二道にはげみ世法を修得すべきである。

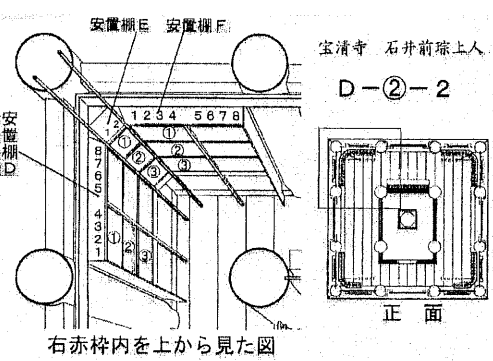
身延山永年の悲願であった五重塔が平成二十年秋に竣工し、平成二十一年五月に落成慶奉告大法要も無事円成したことは、成慶堂新聞第六十七号です。ご報告させていただきますが、昨年十月に五重塔内部に千体仏が勧請されたことと左記の写真が身延より贈られました。



千体仏の台座には東京都宝清寺石井前琮と書かれています。五重塔の千体仏は永代にわたり宝清寺お檀家及び有縁の方々のご先祖の供養と家内安全をお守りしてくださいをお勧め致します。

住職ひと口法話 (第二十)
「陰徳あれば陽報あり」の言葉を贈ります。このお言葉は日蓮上人が四金吾頼基に、「陰ながらの徳行は必ず報われる」と教へられたときのもので、純真一徹な鎌倉武士四金吾頼基は、素直でまっすぐな性格から、信心の志もことのほか純粋な信仰であったので日蓮上人から深く愛され、聖人からあたたかき御守護するように身辺の些事まで気を配り愛育の手を差し伸べられたようです。頼基の性格は直情径行でもあったから、主君のおぼえも良かった。そのため、同僚の嫉妬を招き、主従間の離間策を弄されて主君の不興をかうに至った。頼基は窮地に陥り苦しむが、日蓮上人の「陰ながらの徳行は必ず報われる」との教導に純真素直に従い、隠忍自重久しきにわたって遂に苦境を乗り越え、年余のはてに主君の信頼を回復し、「一場来復の時を迎えることができた。日蓮上人は『陰徳は果報の来る門口であったし、来るべき大果報の前兆だ』と四金吾頼基を励ましたのです。これは鎌倉時代の話ですが、純真一徹の人が損をしたり疎んぜられたり、嫉妬からいじめにあたり仲間はずれにされる傾向は現代も変わりありません。今年も隠忍自重を強いられる年だと思われま。今までは現代人は一見順境な状況に浮かれ、欲に振り回され、社会全体が己を失った状態にあったのではないだろうか。政治が混乱し経済的にも苦しい逆境のときこそ、自分の生きる誠実な姿勢に自信を持ち、己を失わないよう心がける必要があるのではないだろうか。

新しい年を迎えた皆様、宗門から毎月送られてくる聖語の中から、日蓮上人の御遺文『陰徳陽報御書』より、「陰ながらの徳行は必ず報われる」と書かれています。宗門から毎月送られてくる聖語の中から、日蓮上人の御遺文『陰徳陽報御書』より、「陰ながらの徳行は必ず報われる」と書かれています。宗門から毎月送られてくる聖語の中から、日蓮上人の御遺文『陰徳陽報御書』より、「陰ながらの徳行は必ず報われる」と書かれています。



身延山五重塔復元 建立祈念誌
『五重塔復元記念誌「宝塔涌現」』が刊行されました。内容は、五重塔発願から落慶までの背景・経緯・歴史・信仰・仏教の解説・設計建築の詳細・法要行事の記録など歴史的大事業の全てを克明に記録したものです。千体仏の写真と記念誌「宝塔涌現」は法要などで来寺の折、いつでも、手にとって見られるよう展示してあります。ご覧になりたい方は、寺務員に声を掛けてください。

昨年十二月に一〇一歳男性の通夜・葬儀のお勤めをさせて頂いた。通夜の途中で喪主の長女の方が挨拶された。故人は九十五歳の時緑内障の手術をし以後目が不自由だったそうだが、亡くなるまで食事は家族と同じものを食べ、散歩にも積極的に出かけ、家族にありがたうと感謝の言葉を絶やさなかったそう。九十一歳の奥様はお元気で、通夜振る舞いの席で私にご無沙汰で申し訳ないと話、私に食べるよう促し、自分で煮物やお寿司を美味しくそうに食べられていた。喪主が穏やかな雰囲気の中で送ってあげたいと話している途中で孫であろうか若い青年が目には涙を浮かべていた。故人も故人の妻も家族に負担を掛けないよう自分を出ることはするよう努力されていたお二人の姿が浮かんだ。介護される方の負担を掛けない努力と感謝の気持ちが介護する方の負担を軽くし、両者に波長のあった関係が生まれ、一〇一歳という長寿を全う出来たのではないかと感じた。高齢化の社会で家族の介護はどのようにありたい。

宝清寺年中行事

三月	彼岸中日	塔婆供養
四月	花祭り	孟蘭盆会供養
七月	十七日	お施餓鬼法要
七月	彼岸中日	塔婆供養
十月	十二月	お会式法要

日蓮宗の聖日

二月	十五日	釈尊涅槃会
二月	十六日	宗祖降誕会
四月	二十八日	釈尊降誕会
四月	二十八日	立教開宗会
五月	十七日	伊豆法難会
七月	八日	身延御入山会
八月	二十七日	松葉谷法難会
九月	十二日	龍ノ口法難会
九月	十八日	池上御入山会
十月	十三日	宗祖御会式
十一月	十一日	小松原法難会

御祈願・御供養

交 通 安 全
商 売 繁 盛 祈
方 厄 位 祈
除 運 産 守
星 運 産 守
安 運 産 守

宝清寺では、花祭り(灌仏会)、お盆(孟蘭盆会)の施餓鬼法要、日蓮聖人のお会式を毎年盛大に厳修しております。
このほかにも諸祈願や自動車のお祓いや、年忌供養・祥月命日供養・月命日供養等も行っております。詳しくは寺務所までご相談ください。

宝清寺 ホームページのお知らせ

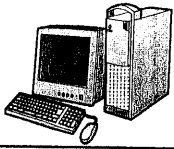
宝清寺のホームページがインターネットで閲覧できるようになりました。

また、YahooやGoogleなどの検索サイトでは検索されませんので、URL(ホームページがある番地)を直接入力する必要がありますが、ぜひご覧ください。
ホームページの構成は、寺院の歴史や墓苑、会館等の説明や諸堂の解説、宝清寺までの交通手段や連絡先などが掲載されています。

また、過去にお届けした「たちばな新聞」を閲覧することもでき、通年をとおして境内で見られる草花の名称や見頃の時期も掲載されています。

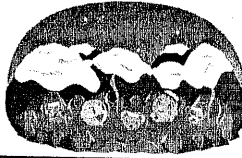
宝清寺の名物は「枝垂れ桜」と「牡丹(ぼたん)」ですが、それ以外にも多くの草花が咲いていますので、御参拝の折には是非、愛でて行ってください。

また、ホームページをご覧いただき、ご感想や、ご意見を頂ければ幸いです。
ホームページ開設に伴い、eメールも受付を開始いたしました。問い合わせ等なんでもご連絡ください。
(eメールアドレス)
houseji@ac.auone-net.jp
(ホームページURL)
<http://www.ab.auone-net.jp/~houseji/>



健康の秘訣

入浴はもっとも手頃な健康法の一つであり、心身のリラクゼーション効果や、血行がよくなることから、血圧も下がり、肩こり、腰痛、神経痛など自律神経にもよい影響があるとされています。また適度な入浴時間にもなると言われていて、特に長湯(約二十分程度)をすることが、心筋梗塞の予防には良いといわれていますが、長時間、肩まで浸かるのは大変ですので、腰湯をおすすめします。腰湯は、肩まで浸かると同じ効果があり、苦しくありません。また湯冷めもしにくく風呂上がり後も温かさが残ります。



私の若い時は、家風呂の釜が壊れたり、気分転換で近所の銭湯に行くこともありました。銭湯は広々としており、なんといつても湯船で足を伸ばせる開放感が好きでした。近年では、銭湯が減少しその代わりにスーパー銭湯や健康ランドと呼ばれる、大型の公衆浴場ができて、場所によっては露天風呂やサウナ、仮眠室もあり終日お風呂でゆっくりすることが出来るようになってきています。

宝清寺がある、あきる野市では「瀬戸の湯」という温泉があり、ハイカーの方々が多く利用されています。また、日の出町の「くるくる温泉」、檜原村の「数馬温泉」、青梅の「岩蔵温泉」などが近隣にありますので、お墓参りの帰りにお寄りになり、心身ともにフレッシュされてお帰りになることも一興ではないでしょうか。

仏様の話し

たちはな新聞の表面でも紹介しましたが、身延山久遠寺に奉安された千体仏の仏とはお釈迦様のことです。

お釈迦様のお姿には種々あり、立っている立像(りゅうどう)、座っている座像(ざどう)、寝ている姿の涅槃像(ねはんざう)などがあります。また、手の位置によって異なる姿を表した説法印(せっぽういん)、悟りをひらいた時の姿を表す禪定印(ぜんじょういん)、悪魔を退治する姿を表す降魔印(こうまいいん)などがあります。

この度、身延山久遠寺に納められた釈迦像は、施無畏と願印(せむいよがんいん)と言います。施無畏(せむい)とは、人々の恐れを取り除き、安心を与える姿で、右手が上を向いている形です。また、左手が下を向いている形を与願(よがん)と言い、人々の願いを聞き入れ、慈悲を与える姿を表しています。宝清寺檀家一同様が、今年も安心し、良願が成就いたしますことを祈念いたします。

宝清寺の草花

時として美しいと思う花に、変な名前がついていることがあります。たとえば、マコノシリヌグイ、ヘクソカズラ、クサレダマ、ワルナスビ、ハキダメギクなどがその一例です。名は体をあらわすといわれますが、意味不明なものもあります。

宝清寺では通年とおして、多くの花が咲いていますが、二月頃のみごころとなる花に「オオイヌフグリ」という名前が咲きます。読んで字のごとく、「大きな犬の肛門」という意味で、とてもかわいそうな名前ですが、瑠璃(るり)色の可憐な花が咲き、私は好きな花の一つです。



高浜虚子は「犬ぶぐり 星のまたたく如くなり」と句を詠み、犬ぶぐりの花を、天空にきらめく星々にみたとえています。ご来寺の折りは、大ぶぐりを探してみたいかがですか。野辺にひっそりと咲いていますよ。

宝清寺の行き方

